



帯広市では、社会総掛かりで子どもの学びと育ちを支える仕組みづくりを進めています。コミュニティ・スクール（CS）は、学校・家庭・地域が目標を共有して、ともに子どもを育てていく取り組みです。

令和6年度 コミュニティ・スクール研修会を開催しました

令和6年6月18日(火)に、学校のCS委員やPTA、地域ボランティア等を対象としたコミュニティ・スクール研修会を開催しました。

学校から「コミュニティ・スクールに期待すること」



緑丘小学校長の川上裕明様より、「コミュニティ・スクールに期待していること」をテーマに、講話をしていただきました。

今と昔の子どもたちを取り巻く社会の違いに触れ、変化の激しい令和の時代に必要なのは、昔とは違った新しい仕組みや、コロナで失われたコミュニケーションの回復のための協働の場であることをお話しいただきました。また、緑丘小学校は帯広市で最も早くコミュニティ・スクールを導入した学校の一つであり、多くの団体の代表等でコミュニティ・スクール協議会を構成していることなどをご紹介いただきました。

最後に、学校がコミュニティ・スクール協議会に期待することとして「学校の教育活動についてご意見をいただきたい」「過去にこだわらず目の前の子どもの未来につながる活動を構築していただきたい」「子どものために、ではなく子どもと共にという考えで一緒に活動してほしい」と3つのこととお話しいただき、参加者からは「わかりやすく楽しく聞くことができました」「コミュニティ・スクール協議会委員の役割が見えてきました」という感想をいただきました。

明星小学校の地域学校協働活動

明星小学校のコミュニティ・スクール協議会委員の河村知明様に、明星小地区のコミュニティ・スクールや地域学校協働活動で実際に行っていることを発表していただきました。

明星小学校地区では、町内会や放課後子ども広場の団体など、地域の様々な団体が協力して活発に活動が行われています。そこで、河村様には地域の方が学校と活動をする上で心がけていることを紹介いただきました。「地域に手伝いや懇親会の案内をするときは学校ではなく地域の方が文書を作成する」「普段から懇親会等で顔を合わせ信頼関係を構築している」「子どもに楽しい活動をしてもらうためには参加する大人が楽しむ」「学校に意見を言うだけでなく、自分たちで実現・実践する」といった、学校に頼ることなく地域の方々が率先して行動していることを具体的なエピソードを交えてお話しいただきました。

今回の研修会は、今年度から委員になった方が多く参加しており、あまり聞くことのない他の学校のコミュニティ・スクール協議会委員の方の話に「とても参考になった」と感想をいただきました。



【子ども学校応援地域交付金】のご紹介



地域のボランティア団体が協力して行う子どものための活動に対して、10万円を限度に交付金による支援事業を行っています。令和5年度には、地域が協力して学校で行う夏祭りや、学校の花壇整備、交通安全教室、もちつき大会などにご活用いただきました。詳しくは、帯広市ホームページをご覧ください。

また、予算には限りがありますので、活用したい事業がある場合は、下記問い合わせ先までご連絡・ご相談ください。



【発行・問合せ先】

帯広市教育委員会 学校教育部 教育総務室 学校地域連携課

TEL : 0155-65-4162

Email : school_cooperation@city.obihiro.hokkaido.jp

(令和6年7月19日発行)

